

中等教育学校第3学年美術科学習指導案

1、題材名

自然環境とデザインー私たちの目線でー

2、題材の目標

(1) 美術科としての目標

○自然環境に見立てた形（地形）から発想し建造物や構造物のモデルをつくる活動を通して、美的な価値観により形や色彩、光の効果などを判断し表現する力を培う。

(2) 汎用的スキル

○改善すべきこと、達成したいことなど、自分や自分が属する集団にとっての課題や問題を発見し、その解決や目標達成をなしとげることができる（問題解決力）。

(3) 態度・価値

○人々の生活を見直し、より良いものにしようとする意識や、そのために社会と積極的に関わり、大切なことや良いこと、必要なことを実践しようとする。（より良い社会への意識）

3、生徒の実態

本校における第3学年は6年間のフェーズの発展期にあたる（1、2年は基礎期、5、6年は充実期）。義務教育の最終学年でありながらも5、6年の充実期に向けた学習内容や方法に取り組んでいる。基礎期では各題材において〔共通事項〕を強く意識し、造形的なコミュニケーションの有用性を理解してきた。それは第2学年で学際的単位として数学と共に取り組んでいる授業「パターン」でも見られる。図学的な構成展開とテーマ設定及び造形表現の価値観をもとに美術科に即した提案をし、造形的な特徴の理解と活用の必要性を体感している。第2学年の題材では彫刻的な取り組みにより、空間と美術の関係について表現と鑑賞をする経験を積んでいる。国際バカロレアの探究的な学習はほぼ自力でできると考えてよい。

4、題材について

①教科から見た特性

自然環境を設定し、構造物及び建造物に類するモデルを制作することで、空間的な美しさと機能の両立をめざす。空間表現では、これまでよりも光による効果を考える必要がある。生徒は色彩や形を決定する際の判断に迷う。環境に完全に溶け込ませるのかそれともシンボル化するかという幅の中で、デザインを任された立場から最もよい造形を見出す必要がある。感情や感覚、理性などを働かせて美的な価値観からの提案をするのが特徴である。また、多様な事例をクラスで共有するとともに、生徒自身のリサーチも合わせて行う。自分のデザインが実社会の考えとの類似性や、新しい提案となる独自性を自覚し、デザインによる表現者として成長するための題材である。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

生徒たちは起伏のある地形の問題を解決する。山と山の間に橋を架ける、谷の間に温泉をつくるなどである。ここで活用されるのは“造形的な視点”であるべきだ。その作品の社会的な背景や解決に向けた施策を述べることも、**「なぜこのような形や色彩、光の造形的な効果などにより問題と対峙したのか」**が問われる。自分がデザインしようと思うものに内包される問題を発見することが必要となる。特に環境デザインは不特定多数の鑑賞者（利用者）を対象としている。その状況下において生徒が美術による主張と調和を模索することに価値があり、それゆえより良い社会への意識を育むことができる。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全10時間 本時／10時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	・開発に伴う土地（地形）の現状を知り、考える。 ・設定した問題を解決するための構造物及び建造物のアイデアを練る。	○問題解決力 ○よりよい社会への意識	○問題となることを美術で解決できるのかという議論。 ○個々の「よりよい社会への意識」をデザイン決定の判断とすることの共通理解。
第2次 (6時間)	・様々な材料を組み合わせてモデルをつくる	○問題解決力	○制作過程で「問題」との結びつきを見直し、計画を改善する。
第3次 (2時間)	・鑑賞及びプレゼンテーションをする。 ・議論的な問いをもとに学習を振り返る。	○よりよい社会への意識	○表現に内包されている「よりよい社会への意識」と制作の結果について議論をする。

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・造形的な視点に立ってプレゼンテーションをすることができる。
- ・「自らデザインの、何がよりよい社会と結びつくのか」を議論し、振り返ることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 3分	○ 学習のつくりと展開を議論する ・新しいグループをつくり、そこでプレゼンテーションをする。 ・質疑応答では、造形的な見方や考え方で批評する。 ・自分たちのデザインを例にして、「造形的な要素の何がどのようにによりよい社会と結びつくのか」を議論する。 ・クラス内で各グループが議論したことを発表する。 ・活動を振り返る。	◇環境デザインでは、構造物がその場所にもたらすイメージ（造形的）が実質的な機能や目的達成と両輪となって必要となることを理解しておく。合わせて造形的な視点に立ったプレゼンテーションの内容と質問となるように、キーワードを示す。
展開 40分	造形的な何がよりよい社会をつくりだすのか？ ○新しいグループ内でプレゼンテーションをする。 ・地形の美しさと同調するような形にした。 ・その場所のシンボルとなるように景色と補色にした。 ・左右の山の高さが7：3に近いので、同じ比率を反転させて構成した。 ・その土地の石を部分的に使った。 ○造形的な見方や考え方をを用いて批評をする。 ・地形の美しさは有機的で、無機的な形の方が美しさを引き立てるのではないか。 ・目立った構造物の色彩は、自然豊かさを損なうのか ・左右の山の高さが9：1でも同じ方法をとるのか。 ○自分たちのデザインを例にして、「造形的な要素の何がどのようにによりよい社会をつくりだすのか」を議論する。 ・Aさんのように有機的な形を用いることで、土地のイメージへと繋がるのではないか。 ・Bさんはオフシーズンに目立つ色を設定しているので、その時期のランドマークとなるのではないか。 ○クラス内で各グループが議論したことから新たに問いを立てて発表する。 ・私たちのグループは、建造物や構造物の造形的な魅力がその土地のイメージや文化を作り出すことに気がついた。またそのことに疑問を抱いた。 「(例えば東京タワーのように)人工物がその土地のイメージに与える影響は大きいのか」	◇なぜその形や色彩、構成などにしたのか、その造形的な効果は鑑賞者や利用者にとってどのように受け取られるのかについてプレゼンテーションができるように焦点化しておく。 ◇作者の主張を尊重しつつ、鑑賞者は批判的な見方で対案を考えよりよいものになるようにグループトークを用いる。 ◆よさや美しさについて造形的な視点で批評する。 ◇グループのメンバーに共通する主張と個々で違っている主張についての2段階で「よりよい社会に向けて判断・表現したこと」について議論をする。 ◇実社会における建造物や構造物に視野が広がるように、自分の視点と関連がありそうな建造物や構造物についてリサーチを進めておく。
結末 7分	○クラス内で発表された問いや自分の問いをもとに、自ら思考・判断・表現・鑑賞をしてきたことを振り返る。	◇活動報告で終わらないよう、表現に内包されている「よりよい社会への意識」と制作の結果についての議論を自分なりに価値づけるようにする。

●記録映像 無し